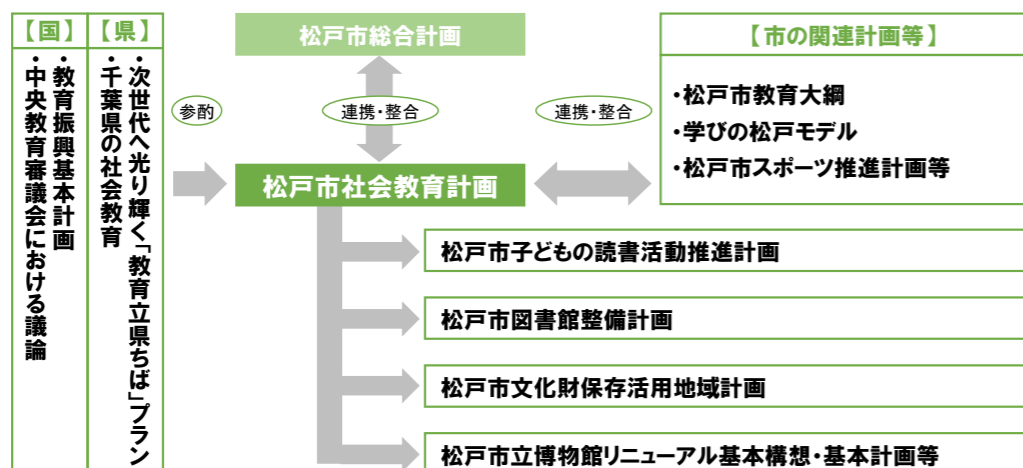


# 第二次松戸市社会教育計画（概要）

## 計画の位置づけ

本計画は、全ての市民の学びを保障し、松戸市の将来像や市民が潤いのある生活をするために、社会教育行政が果たす役割と方向性を示したものです。

「松戸市総合計画」、2030年に向けた松戸市教育委員会の指針「学びの松戸モデル」、そのほか関連計画等との整合を図るとともに、国の教育振興基本計画や中央教育審議会における議論も参酌して策定します。



## 計画の期間

本計画の期間を令和5年度から令和12年度の8年間とし、長期的な視点に立った取組を計画的に進めます。一方で、社会情勢の変化にも適切に対応できるよう、3年ごとに計画事業の見直しを行います。

## 社会教育推進の課題と対応

### 課題 市民の主体性を育む学びの内容・機会の充実

持続可能な開発目標（SDGs）の1つに「すべての人々へ包摂的かつ公平な質の高い教育を提供し、生涯学習の機会を促進する」ことが挙げられています。松戸市ではライフステージに応じた学びを通じて、本市特有の歴史文化を知り、次代へ引き継ぐとともに、多様性への配慮や新たな松戸の価値や魅力も含めて、市民が主体的に考えられるような学びのきっかけを提供し、市民の自立・誇り・つながりを育む機会を充実します。

### 課題 学びの環境の充実

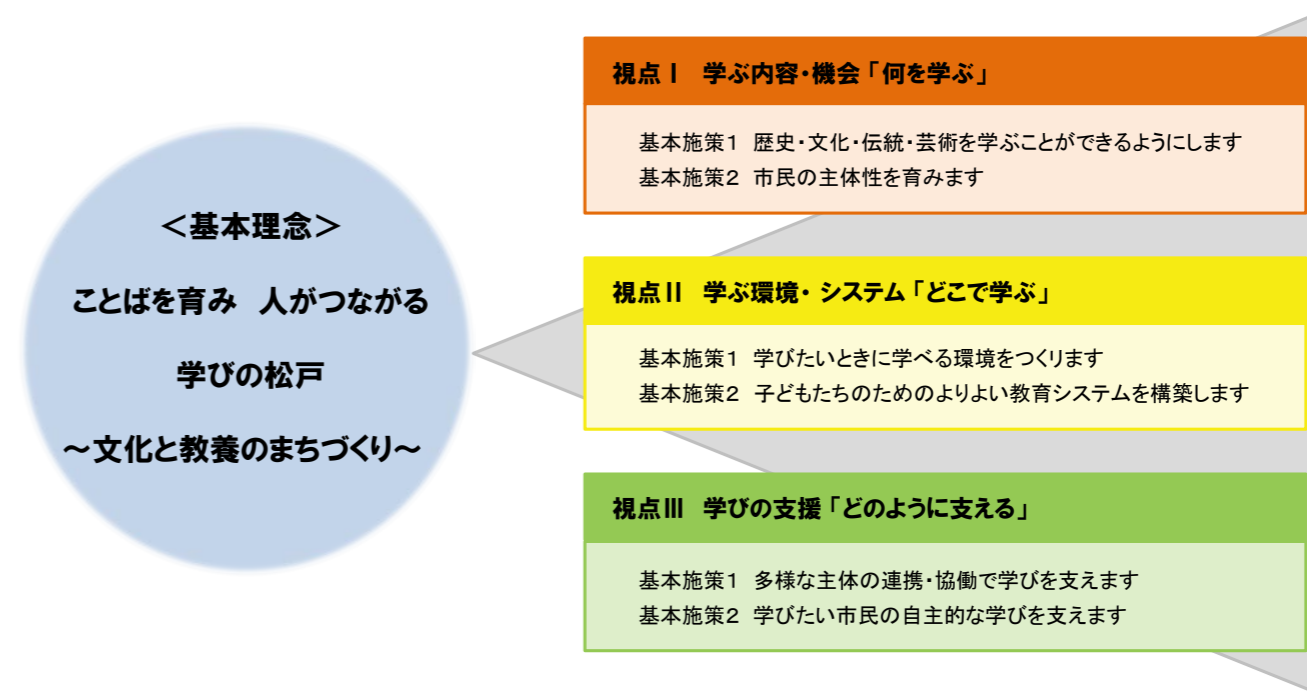
市民意識調査結果では、市民の約6割が社会教育施設の充実が必要と回答しており、図書館をはじめとする学びの拠点の整備や機能充実が求められているほか、博物館や文化会館などの老朽化による大規模改修やバリアフリー化など、計画的な整備、更新が必要となっています。社会環境の変化や市民ニーズの多様化を踏まえ、市民の学びや文化活動の拠点となる社会教育施設の計画的な改修や整備を推進し、学びの環境の充実を図ります。

### 課題 地域の社会的包摂を目指した社会教育の推進

社会教育は、だれ一人社会に取り残されることなく生きがいを感じることができるような社会的包摂のある地域づくりの実現に向けて大きな役割を担っています。地域や団体・家庭・学校など多様な主体との連携により市民の学びを支えます。

## 基本理念と施策の体系

「学びの松戸モデル」のうち、社会教育に関する施策を抜粋して施策体系としました。3つの視点と、それに紐づく6つの基本施策を推進して、基本理念の実現を目指します。



### 重点目標について

各視点で重点的に取り組んでいく事業を抜粋し、7つの重点目標を設定しました。これらに基づいて本市の社会教育をより一層推進していきます。

視点Ⅰ 学ぶ内容・機会「何を学ぶ」	
重点目標①	松戸市の歴史文化や文化財についての学びを通じて、地域の価値や魅力を伝え継承できるようにします。
重点目標②	歴史や文化・芸術の学びに関心を持ち、学びのきっかけになる多様な機会を提供します。
重点目標③	市民の主体性を育む学びの機会の充実を図ります。
視点Ⅱ 学ぶ環境・システム「どこで学ぶ」	
重点目標④	市民の文化や学びの拠点として、図書館をはじめとする社会教育施設の計画的な整備や改修を図ります。
重点目標⑤	縄文からの松戸の歴史文化を伝え、学ぶ拠点として博物館などの施設の計画的な改修を図ります。
視点Ⅲ 学びの視線「どのように支える」	
重点目標⑥	学びの拠点の機能の充実を図ります。
重点目標⑦	社会教育を基盤とした人づくり・つながりづくりを推進します。